

ECO-200とSanacide - EPの 使用回数による検討

医療法人 蒼龍会 武蔵嵐山病院¹⁾
埼玉医科大学国際医療センター MEサービス部²⁾

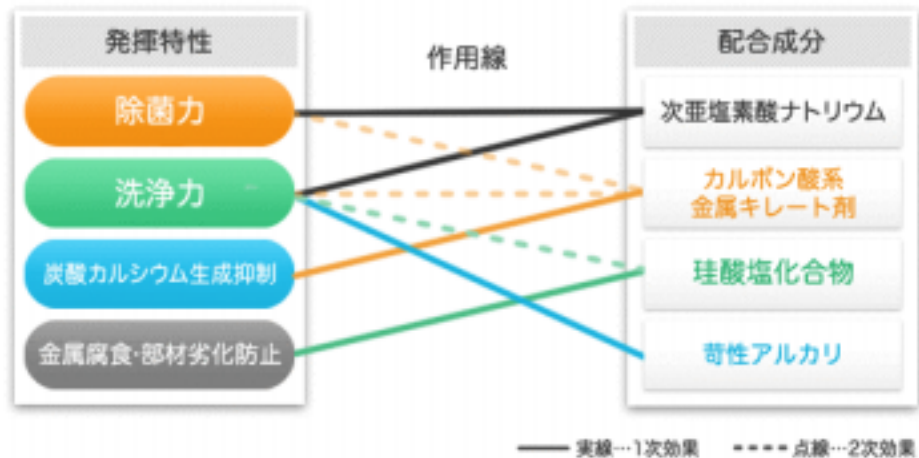
黒岩弘樹¹⁾
坂野進一¹⁾, 篠田香織¹⁾, 北園力生¹⁾, 塚本 功²⁾,
西野義親¹⁾, 菅野龍彦¹⁾

目的

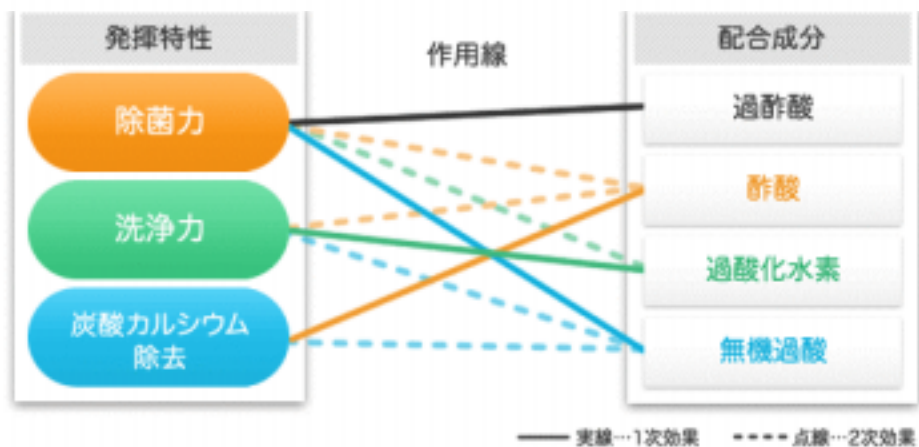
ECO-200およびSanacide - EPの使用回数による検討を行った。

消毒剤の特徴

塩素系
ECO-200



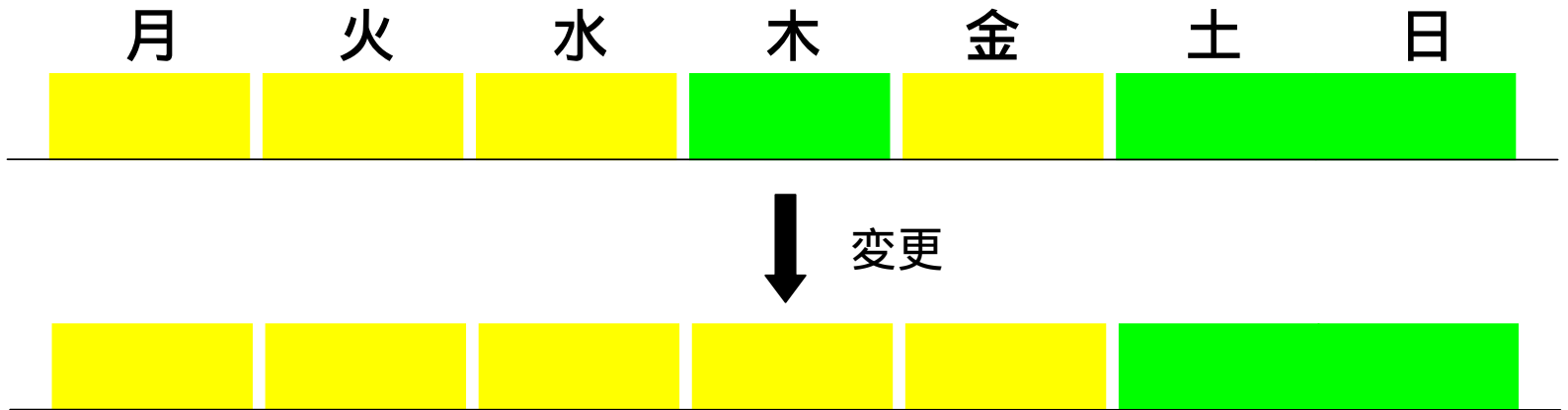
過酢酸系
Sanacide - EP





(アムテック株式会社HPより引用)

方法

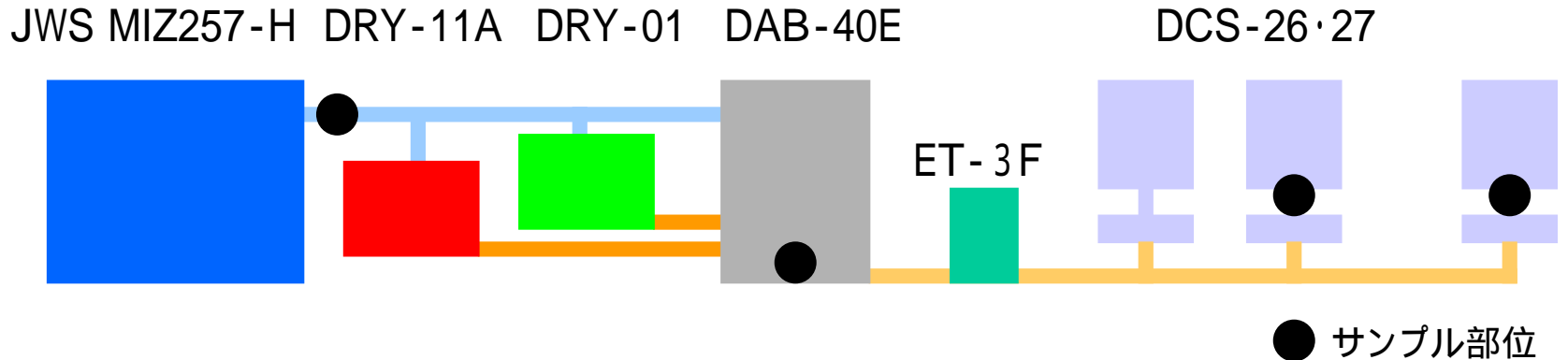
12ヶ月使用後にSanacide - EP を週1回に変更した。



 ECO-200 (原液200倍希釈)

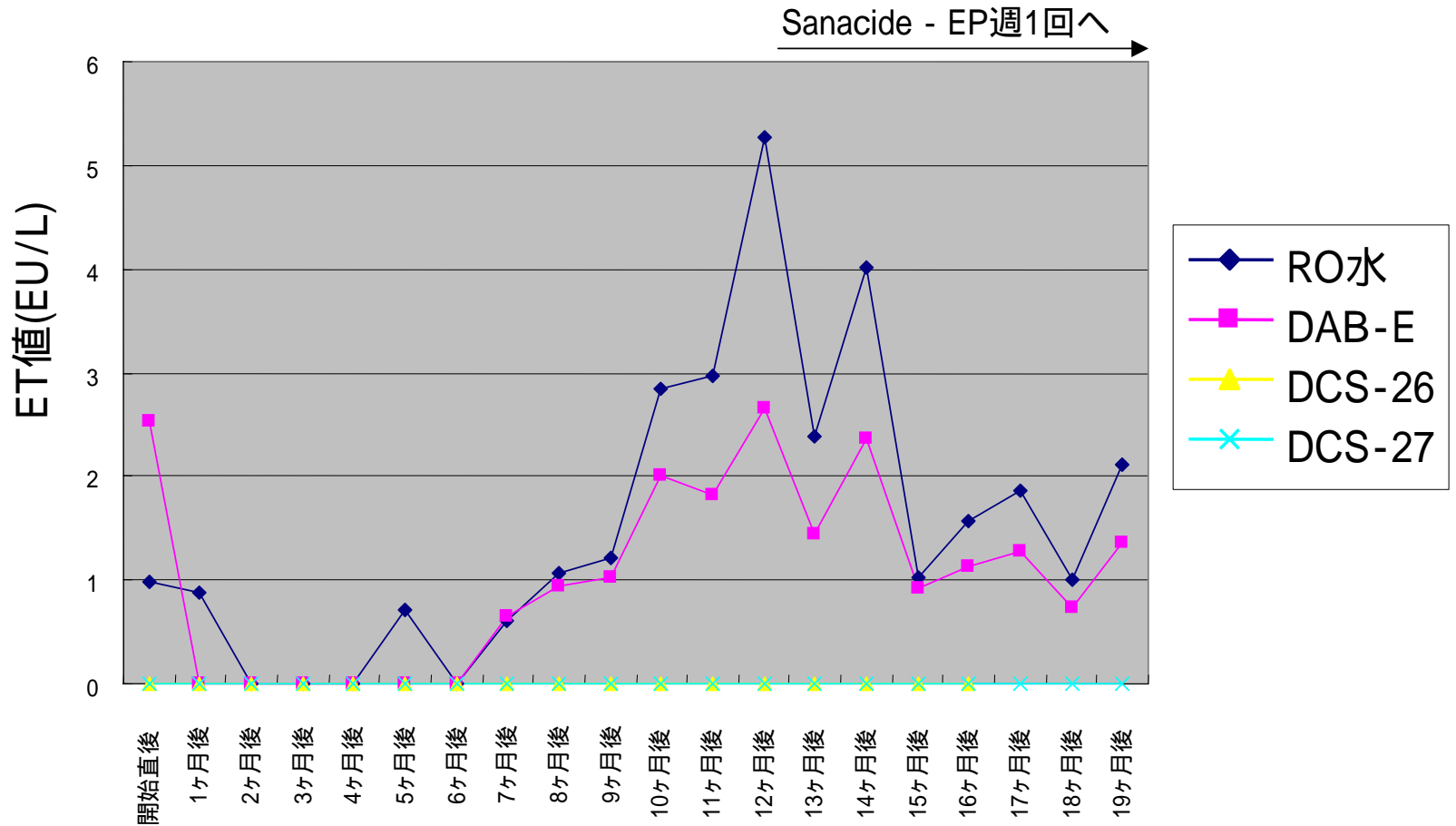
 Sanacide - EP (原液50倍希釈)

検討項目

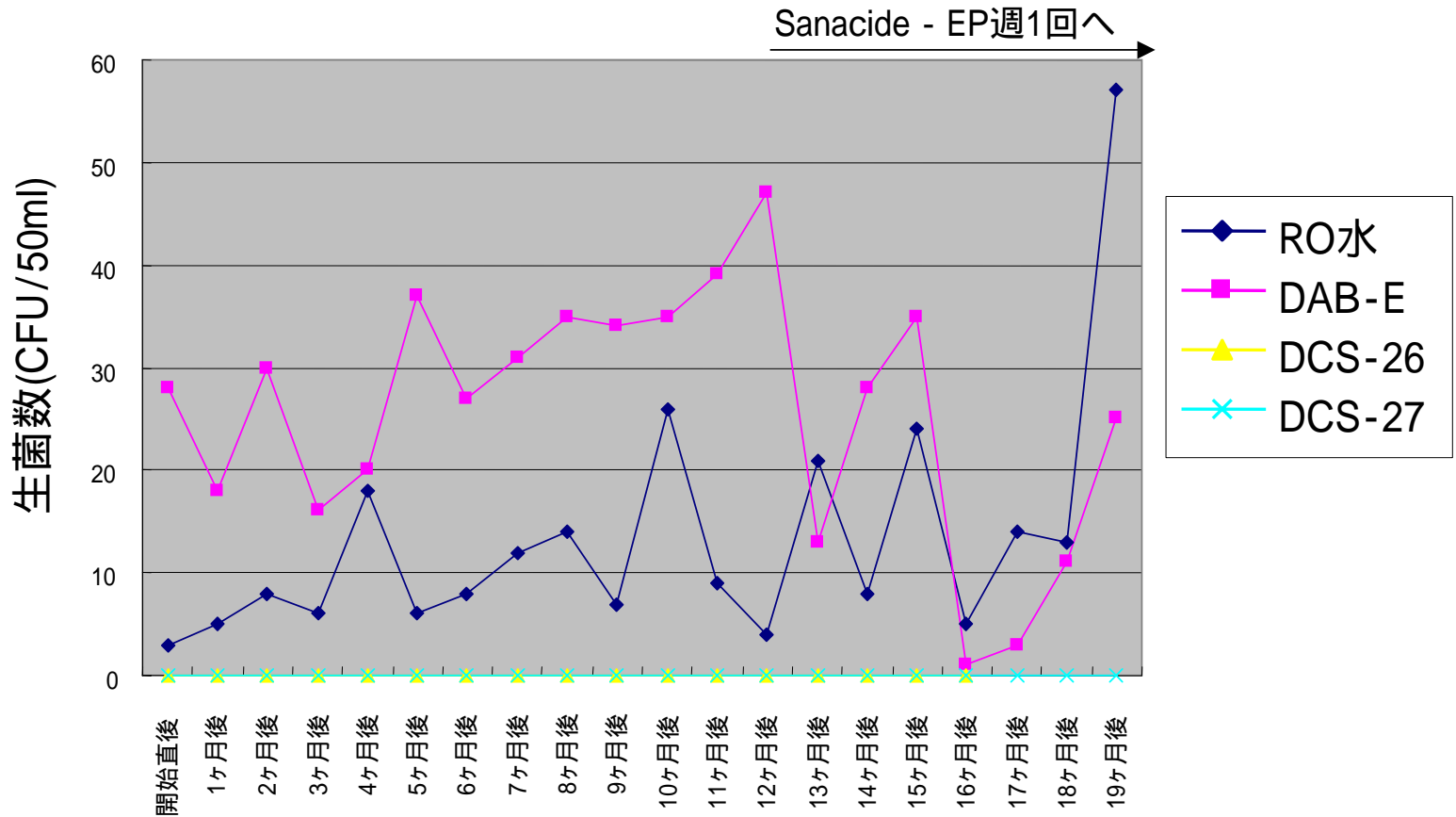


- (1)上記のサンプル箇所からET値と生菌数を測定した。ET値はトキシノメーターミニ(和光純薬工業社製)、生菌数は37mmクォリティーモニター(アドバンテック社製)を用いた。
- (2) DCS-26・27はUFRC自己診断および装置内部を観察した。
- (3) DCS-27末端のシリコンチューブを染色試験・デジタル顕微鏡にて観察した。
- (4)使用薬剤変更におけるコストを試算した。

ET値の変化

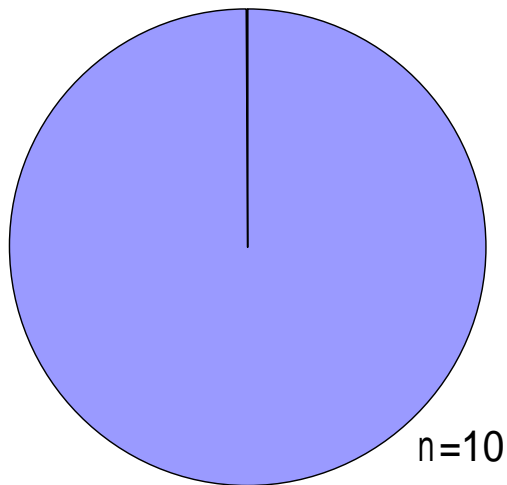


生菌数の変化

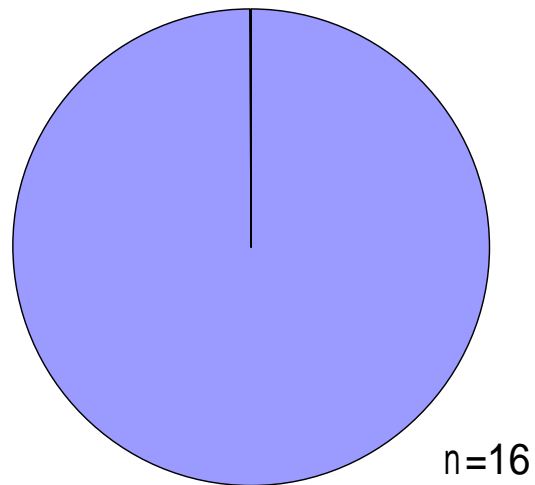


測定条件 (温度:25度 培養期間:7日間)

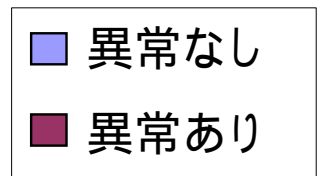
自己診断の結果



DCS-26



DCS-27



金属部品の目視 (DCS-26)

Sanacide - EP週1回へ →

開始前



6ヶ月後



12ヶ月後



16ヶ月後



金属部品の目視 (DCS-27)

Sanacide - EP週1回へ →

開始前

6ヶ月後











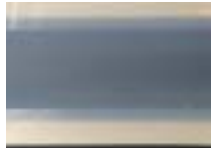

12ヶ月後

18ヶ月後



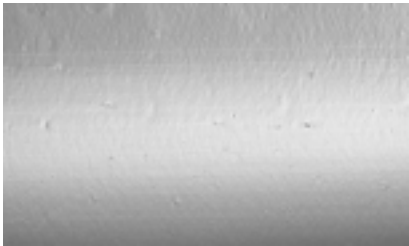
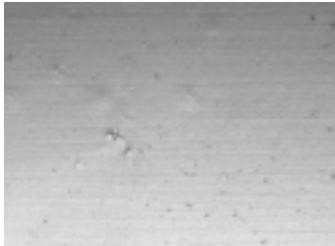
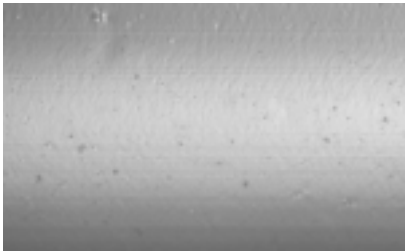
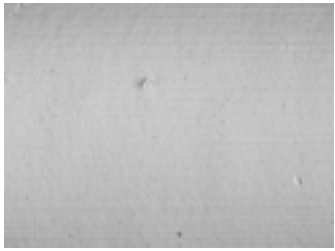
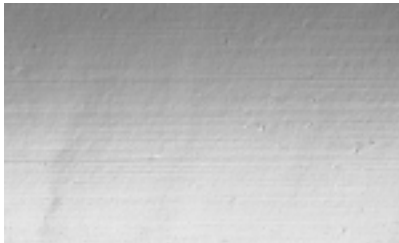
この後にガーゼでふき取り

シリコンチューブの観察(1)

	透析液出口		透析液戻り口	
	6ヶ月後	18ヶ月後	6ヶ月後	18ヶ月後
ポンソー3R (蛋白質)				
ズダンブラックB (脂質)				
PAS (糖鎖)				

(DCS-27)

シリコンチューブの観察(2)

	6ヶ月後	18ヶ月後
透析液出口		
透析液戻り口		
未使用		

(500倍)
(DCS-27)

コスト

	定価(円)	容量(L)	1回原液使用量(L)	1回使用コスト(円)
ECO-200	32,000	18	1.5	2,667
Sanacide - EP	12,000	10	6.0	7,200

消毒方法		週間コスト(円)	月間コスト(円)
ECO-200 4回	Sanacide - EP 2回	25,068	105,606
ECO-200 5回	Sanacide - EP 1回	20,535	87,474

まとめ

- (1)ET値・生菌数は低値にて管理可能であった。
- (2)自己診断・金属部品・シリコンチューブに問題は認めなかった。
- (3)Sanacide - EPの使用回数を減らすことでコスト削減が可能であった。

結語

ECO-200とSanacide - EPの併用について長期的に問題は認められなかった。また回数による影響も認めず、使用方法によりコスト削減が可能であった。